

第52回 労働衛生コンサルタント試験

(労働衛生一般)

指示があるまで、試験問題を開かないでください。

[注意事項]

1 解答方法

- (1) 解答は、別の解答用紙に記入(マーク)してください。
- (2) 使用できる鉛筆(シャープペンシル可)は、「HB」又は「B」です。
ボールペン、サインペンなどは使用できません。
- (3) 解答用紙は、機械で採点しますので、折ったり、曲げたり、汚したりしないでください。
- (4) 解答を訂正するときは、消しゴムできれいに消してから書き直してください。
- (5) 問題は、五肢択一式で、正答は一間につき一つだけです。二つ以上に記入(マーク)したもの、判読が困難なものは、得点としません。
- (6) 計算、メモなどは、解答用紙に書かずに試験問題の余白を利用してください。

2 受験票には、何も記入しないでください。

3 試験時間は2時間で、試験問題は問1～問30です。

4 試験開始後、1時間以内は退室できません。

試験時間終了前に退室するときは、着席のまま無言で手を上げてください。

試験監督員が席まで伺います。

なお、退室した後は、再び試験室に入ることはできません。

5 試験問題はお持ち帰りください。

問 1 労働衛生管理に関する次のイ～リの措置について、該当する労働衛生の三管理（作業環境管理・作業管理・健康管理）の組合せのうち、適切なもののみを挙げたものは（1）～（5）のうちどれか。

- イ 有害業務に従事することが適当でないと医師が認めた者を配置転換する。
- ロ 高温多湿作業に労働者を従事させる場合に暑熱順化期間を設ける。
- ハ 騒音作業において、騒音発生源である機械に防振ゴムを取り付ける。
- ニ 放射線業務において、管理区域を設定し、必要のある者以外の者を立入禁止とする。
- ホ 情報機器作業において、間接照明等のグレア防止用照明器具を用いる。
- ヘ 長時間労働者に対して、医師による面接指導を行う。
- ト 疾病による休職者の職場復帰を支援する。
- チ ずい道建設工事の掘削作業において、土石又は岩石を湿潤な状態に保つための設備を設ける。
- リ 重量物取扱い作業において、人力で取り扱う重量物の重量や取扱い回数に制限を設ける。

	作業環境管理	作業管理	健康管理
(1)	ハ	ホ	ト
(2)	チ	ホ	ロ
(3)	ニ	リ	ヘ
(4)	ハ	イ	ロ
○ (5)	チ	リ	ヘ

問 2 厚生労働省の「職場における受動喫煙防止のためのガイドライン」に関する次のイ～ニの記述について、正しいものの組合せは(1)～(5)のうちどれか。

イ 第一種施設とは、多数の者が利用する施設のうち、学校、病院、国や地方公共団体の行政機関の庁舎等をいい、「原則敷地内禁煙」とされている。

ロ 第二種施設には一般の事務所や工場が含まれ、「原則屋内禁煙」とされているが、特定の時間を禁煙とする時間分煙は例外的に認められている。

ハ たばこの煙の流出を防止するための技術的基準に適合した喫煙専用室においては、飲料の摂取は認められている。

ニ 喫煙専用室には、20歳未満の者を立ち入らせてはならず、たとえ清掃作業のためであっても認められない。

- (1) イ ロ
○ (2) イ ニ
(3) ロ ハ
(4) ロ ニ
(5) ハ ニ

問 3 厚生労働省の労働衛生統計等に関する次のイ～ニの記述について、正しいものの組合せは(1)～(5)のうちどれか。

イ「精神障害の労災補償状況」によると、精神障害による労災補償支給決定件数は、平成30年度以降増加傾向にあり、令和4年度は約700件であった。

ロ「脳・心臓疾患の労災補償状況」によると、脳・心臓疾患の労災補償支給決定件数は、平成30年度以降増加傾向にあり、令和4年度は約500件であった。

ハ「令和4年労働安全衛生調査（実態調査）」によると、メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業場の割合は、労働者数50人以上の事業場で約50%であった。

ニ「第14次労働災害防止計画」の記述によると、特定化学物質障害予防規則等による個別規制の対象外となっている化学物質による労働災害が、化学物質による労働災害全体の約8割を占めている。

- (1) イ ロ
- (2) イ ニ
- (3) ロ ハ
- (4) ロ ニ
- (5) ハ ニ

問 4 有害物の性状、測定等に関する次のイ～ホの記述について、誤っているものの組合せは（１）～（５）のうちどれか。

イ 環境空気中の有害物質の濃度の分布は、一般に、正規分布に従う。

ロ 1,4-ジオキサンは、脂溶性と水溶性の双方を有している。

ハ アセトン、トルエンより極性が大きい。

ニ 空気中の有機溶剤の体積分率0.5%は、5000ppmに相当する。

ホ 粉じんの相対沈降径は、光学的観察による粉じん粒径の測定により求める。

- (1) イ ハ
 ○ (2) イ ホ
 (3) ロ ニ
 (4) ロ ハ
 (5) ニ ホ

問 5 石綿に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) クロシドライトは、これまでに使用されてきた石綿の9割以上を占める。
 (2) 石綿繊維は極めて細いため、長さ数十 μm の石綿繊維が肺内に検出されることも少なくない。
 (3) 石綿関連疾患には、石綿肺、肺がん、中皮腫、良性石綿胸水が含まれる。
 (4) 石綿ばく露によって生じる肺がんの発生部位、病理組織型は、通常の肺がんとは異なる。
 (5) 胸膜プラークや、肺組織中の石綿小体は、過去の石綿ばく露の指標となる。

問 6 けい肺症に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 遊離結晶性シリカの吸入により生じる。
 - (2) 採石場労働者、石切り工、研磨作業員、ガラス職人に多い。
 - (3) 肺結核及び非結核性肺抗酸菌症を発症するリスクが高い。
 - (4) 急性けい肺症は、短期間（数か月～数年）の多量の原因物質ばく露により引き起こされる。
- (5) 胸部エックス線写真で下肺野に線状影が多く見られる。

問 7 電離放射線の生体影響に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 細胞分裂が盛んな組織は、放射線感受性が高い。
 - (2) しきい線量以下では、確定的影響は見られない。
 - (3) 眼の水晶体の混濁は、確定的影響かつ晩発影響である。
- (4) 最も放射線感受性が高い細胞は、卵巣の濾胞^ろ上皮細胞である。
- (5) 放射線誘発がんの代表的なものとして、白血病が挙げられる。

問 8 減圧症に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 窒素は、脂肪含量の高い組織に溶解しやすい。
- (2) 減圧症は、圧力が急速に減少することにより、血液又は組織に溶解していたガスが気泡を形成することで生じる。
- (3) 心臓内の右左短絡は、減圧症の危険因子である。
- (4) スクイズと呼ばれる息切れ、胸痛などの呼吸器症状が生じる。
- (5) 減圧性の骨壊死が生じる。

問 9 酸素欠乏症及び硫化水素中毒とその予防に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 酵母など発酵する物を入れてある醸造槽の内部での作業は、酸素欠乏症の危険がある。
- (2) 空気中の酸素濃度が12～16%程度では、一般に、集中力の低下や、頭痛、吐き気などの症状がみられる。
- (3) 硫化水素は無色で、その比重は空気より大であり、滞留性がある。
- (4) 高濃度の硫化水素は、脳細胞内の呼吸酵素の働きを阻害し、意識消失を瞬時に引き起こす。
- (5) 空気中の硫化水素濃度が1～5 ppmで、嗅覚麻痺が生じる。

問10 振動障害の診断に用いられる検査項目として、適切でないものは次のうちどれか。

- (1) 握力（最大握力、瞬発握力）
- (2) 手指の皮膚温
- (3) 血圧
- (4) 爪圧迫
- (5) 24時間心電図

問11 職場における熱中症予防に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 糖尿病で血糖値が高い場合は、発症のリスクが高い。
- (2) 日射がある場合、WBGT値を求める計算において、気温（乾球温度）は算出に用いない。
- (3) 暑熱順化は、暑熱順化していない状態から7日以上かけて熱へのばく露時間を次第に長くすることで行う。
- (4) 身体作業強度（代謝率レベル）が高くなるほど、適用すべきWBGT基準値は低くなる。
- (5) 休憩中の体温が作業開始前の体温に戻らない場合は、熱へのばく露を止める。

問12 視覚に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 近視とは、眼球内に入ってきた平行光線が網膜の手前で焦点を結ぶ状態をいう。
- (2) 乱視は、眼球内部を満たすゼリー状の硝子体のゆがみにより、焦点が複数できることで生じる。
- (3) 眼球をカメラに例えると、水晶体はレンズ、網膜はフィルムに相当する。
- (4) 眼は、外界の明るさの変化に対し、瞳孔径の変化と網膜の順応によって対応する。
- (5) 視力検査には、遠見視力検査（5 m視力）に加え、近見視力検査（50cm視力又は30cm視力）がある。

問13 厚生労働省の「健康診断結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針」に関する次のイ～ニの記述について、適切なもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

ただし、医師等とは健康診断の結果についての意見の聴取を行う医師又は歯科医師をいうものとする。

イ 事業者は、医師等に対し、意見の聴取を行う上で必要となる労働者の業務に関する情報を提供する必要がある。

ロ 事業者は、医師等に対し、健康診断個人票の医師等の意見欄に、就業上の措置に関する意見を記入することを求める。

ハ 事業者は、就業区分に応じた就業上の措置を決定する場合には、あらかじめ当該労働者の意見を聴き、その労働者の了解が得られるよう努める。

ニ 事業者は、医師等の意見に基づき、労働者に就業制限を講じる場合には、衛生委員会で当該労働者の健康診断の結果について調査審議し、具体的な内容を決定する。

- (1) イ ロ
- (2) イ ロ ハ
- (3) イ ハ ニ
- (4) ロ ハ ニ
- (5) ロ ニ

問14 厚生労働省の「事業場における労働者の健康保持増進のための指針」に関する次のイ～ニの記述について、適切なもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

イ 労働者の高齢化を見据えた取組として、筋力や認知機能等の心身の活力が低下するフレイルやロコモティブシンドロームの予防に取り組むことが重要である。

ロ 健康保持増進対策を継続的かつ計画的に行うための取組として、推進体制の確立、課題の把握、目標の設定、措置の決定、計画の作成、計画の実施、実施結果の評価の7項目が定められている。

ハ 労働者の健康状態の把握においては、転倒等の労働災害を防止するため、体力の状況を把握し、自らの身体機能の維持向上に取り組めるよう、ロコモ度テスト等の健康測定等を実施する。

ニ 健康指導は、運動指導、メンタルヘルスケア、栄養指導、口腔保健指導^{くう}及び保健指導を含むもの又はこれらに関するものであり、全ての措置の実施が困難な場合には、可能なものから実施する。

- (1) イ ロ ハ
 (2) イ ロ ニ
 ○ (3) イ ハ ニ
 (4) イ ハ
 (5) ロ ニ

問15 厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) メンタルヘルスケアを継続的かつ計画的に行うため、心の健康づくり計画を策定し、各事業場における労働安全衛生に関する計画の中に位置づける。
- (2) 心の健康づくり計画の策定、実施体制の整備等の具体的な実施方策や個人情報保護に関する規程等の策定等に当たっては、衛生委員会等において調査審議を行う。
- (3) 産業医等は、対策の実施状況の把握、教育研修の企画及び実施、セルフケア及びラインによるケアの支援、情報の収集及び提供、健康情報の保護等を行う。
- (4) メンタルヘルス不調への気付きと対応のため、産業医は、労働者、管理監督者、家族等からの相談に対して対応できる体制を整備し、相談等により把握した情報を事業者が事業場外の医療機関に提供する。
- (5) 事業者が把握した心の健康に関する情報を理由として、期間を定めて雇用される者について契約の更新をしないことは、不利益な取扱いに該当する。

問16 自律神経活動に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 瞳孔は交感神経活動により散大し、副交感神経活動により縮小する。
- (2) 心拍数は交感神経活動により増加し、副交感神経活動により減少する。
- (3) 気管支平滑筋は交感神経活動により収縮し、副交感神経活動により弛緩する。
- (4) 消化運動は交感神経活動により抑制され、副交感神経活動により促進される。
- (5) 膀胱排尿筋は交感神経活動により弛緩し、副交感神経活動により収縮する。

問17 有機溶剤の健康影響等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) トルエンは、接着剤や塗料の溶剤などに使用され、代謝物である尿中のメチル馬尿酸は、生物学的モニタリングの指標として利用される。
- (2) ジクロロメタンは、金属部品の脱脂洗浄剤などとして使用され、慢性ばく露により、肝臓が障害される。
- (3) ノルマルヘキサンは、溶剤や接着剤などで使用され、代謝物は2,5-ヘキサレンジオンであり、末梢神経障害を生じる。
- (4) *N,N*-ジメチルホルムアミドは、合成繊維などの製造工程で溶剤として使用され、慢性ばく露により、頭痛、めまい、消化不良、肝機能障害などがみられる。
- (5) 二硫化炭素は、レーヨンの製造工程で溶剤として使用され、高濃度のばく露では精神障害を生じる。

問18 有機溶剤に関する次のイ～ニの記述について、適切なもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

- イ シンナーは、一般に、異なる有機溶剤を混合したもので、成分の有機溶剤の種類や混合比率には様々なものがある。
- ロ 有機溶剤の使用に当たっては、その蒸気を吸入すること以外に皮膚からの吸収にも注意する必要がある。
- ハ 有機溶剤を含む排ガスの処理のための空気清浄装置には、主として、吸着式排ガス処理装置又は燃焼式排ガス処理装置が用いられる。
- ニ 有機溶剤用の直結式防毒マスクは、有機溶剤の濃度が2%以下の大気中で使用するものである。

- (1) イ ロ ハ
- (2) イ ロ ニ
- (3) イ ハ
- (4) ロ ニ
- (5) ハ ニ

問19 作業環境測定に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) A測定で、測定値が定量下限の値に満たない測定点があるときは、当該定量下限の値を当該測定点における測定値とみなして、管理区分の決定を行う。
- (2) B測定で、複数の作業位置でどこが最大濃度となるか予測できないときは、最大濃度となる可能性がある全ての点で測定を行い、得られた測定値の最大値をB測定値とする。
- (3) 2日間測定を実施する場合、連続する2作業日に測定を行うことができない合理的な理由があるときは、必要最小限の間隔を空けた2作業日に測定を行ってよい。
- (4) C測定は、単位作業場所において、労働者にばく露される個人サンプリング法の対象物質の量が均一でないと見込まれる作業ごとに、それぞれ、5人以上の適切な数の労働者に対して行う。
- (5) D測定を行う場合は、作業が行われる時間のうち、対象となる個人サンプリング法の対象物質の濃度が最も高くなると思われる時間に、15分間のサンプリングを行う。

問20 局所排気装置に関する次のイ～ニの記述について、適切でないものの組合せは、(1)～(5)のうちどれか。

- イ 外付け式フードでは、熱による上昇気流がある場合などを除き、一般に、上方吸引型より下方吸引型の方が有効である。
- ロ 囲い式フードの制御風速は、フード開口面における最小風速である。
- ハ 囲い式フードのうちのドラフトチェンバー型、カバー型及び建築ブース型では、建築ブース型が最も排気効果が高い。
- ニ 抑制濃度とは、局所排気装置を稼働させた状態で、単位作業場所において、作業が行われる時間のうち、空気中の有害物の濃度が最も高くなると思われる位置及び時間において行われた測定によって得られた濃度である。

- (1) イ ロ
- (2) イ ニ
- (3) ロ ハ
- (4) ロ ニ
- (5) ハ ニ

問21 照明に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- (1) 照度とは、単位立体角当たりに放出される光束を観測方向から見た見掛けの面積で割った値のことである。
- (2) グレアとは、照明の光が明滅し、物がちらついて見えることをいう。
- (3) 間接照明は、光線のほとんどが対象に向けて放射される照明方式で、コントラストの強い影ができる。
- (4) 演色評価数は、標準光源の色の見え方と対象とする照明の色の見え方を比較して、その色のずれを数値で表したもので、色のずれが大きいほどその値は大きくなる。
- (5) 照明の光色は色温度で表され、色温度が高いと青みを帯びた光色、色温度が低いと赤みを帯びた光色となる。

問22 化学物質等の有害性等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 変異原性とは、有害要因が細胞の染色体や遺伝子に作用し、損傷したり変化などを起こさせる性質をいい、変異原性のある物質の多くは、発がん性を有している。
- (2) 生殖細胞変異原性とは、次世代に受け継がれる可能性がある突然変異を誘発する性質である。
- (3) 日本産業衛生学会及び米国産業衛生専門家会議（ACGIH）は、ヒトへの発がん性を、グループ1、グループ2A、グループ2B及びグループ3に分類している。
- (4) 特定標的臓器毒性（単回ばく露）とは、単回ばく露によって起こる特定臓器に対する特異的な非致死性の毒性である。
- (5) 生殖毒性とは、雌雄の成体の生殖機能及び受精能力に対し悪影響を及ぼす性質及び子の発生に対し悪影響を及ぼす性質である。

問23 安全データシート（SDS）に用いられる次のA～Cの絵表示と、それらが表す危険有害性クラス及び危険有害性区分の組合せについて、正しいものは（1）～（5）のうちどれか。



A

B

C

- | | | |
|--------------------------|-------------------|-------------|
| (1) 眼に対する重篤な
損傷性(区分1) | 発がん性(区分1) | 誤えん有害性(区分1) |
| ○ (2) 皮膚腐食性(区分1) | 生殖毒性(区分1) | 眼刺激性(区分2 A) |
| (3) 誤えん有害性(区分1) | 生殖細胞変異原性
(区分1) | 皮膚感作性(区分1) |
| (4) 皮膚腐食性(区分1) | 発がん性(区分2) | 生殖毒性(区分2) |
| (5) 皮膚刺激性(区分2) | 発がん性(区分2) | 呼吸器感作性(区分1) |

問24 人力による重量物の運搬における負担軽減対策に関する次のイ～ニの記述について、適切なもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

- イ 荷物を台車に乗せて運搬するときに段差を越える際は、一般に、台車は押すよりも引くとよい。
- ロ 荷物を持ち上げるときは、肩より上に持ち上げないようにする。
- ハ 作業時には、床との接触面積が大きく、摩擦係数が高い靴を履く。
- ニ 荷物を持ち運ぶ際は、小分けにして運搬回数を増やすより、荷物をまとめて運搬回数を減らす。

- (1) イ ロ ハ
- (2) イ ロ
- (3) イ ハ ニ
- (4) ロ ハ ニ
- (5) ニ

問25 呼吸用保護具に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 放射性物質による汚染のおそれのある区域内の作業で、オイルミストが混在する場合に使用する防じんマスクのろ過材の種類はRL3である。
- (2) 有機ガス用防毒マスクの吸収缶は、メタノール、二硫化炭素については、除毒能力試験の試験用ガスに比べて破過時間が長くなる傾向がある。
- (3) アンモニア用の直結式防毒マスクは、アンモニアの濃度が1.5%以下の大気中で使用するものである。
- (4) 吸収缶の破過を知るために、有毒ガス等の臭いに頼ることは、そのばく露限界値にかかわらず、適切ではない。
- (5) ハロゲンガス用防毒マスクの吸収缶の色は灰色及び黒色で、二層に分けている。

問26 厚生労働省の「石綿使用建築物等解体等業務特別教育規程」における教育の科目及び範囲について、下表の ～ に入る語句の組合せとして、正しいものは (1) ～ (5) のうちどれか。

科目	範囲
石綿の有害性	石綿の性状 石綿による疾病の病理及び症状 <input type="text" value="A"/>
石綿等の使用状況	石綿を含有する製品の種類及び用途 <input type="text" value="B"/>
石綿等の粉じんの発散を抑制するための措置	建築物、工作物又は船舶（鋼製の船舶に限る。）の解体等の作業の方法 <input type="text" value="C"/> 作業場所の隔離の方法 その他石綿等の粉じんの発散を抑制するための措置について必要な事項
保護具の使用法	保護具の種類、性能、使用方法及び管理
その他石綿等ばく露の防止に関し必要な事項	労働安全衛生法、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則及び石綿障害予防規則中の関係条項 石綿等による健康障害を防止するため当該業務について必要な事項

- | A | B | C |
|-------------|---------|---------------|
| ○ (1) 喫煙の影響 | 事前調査の方法 | 湿潤化の方法 |
| (2) 喫煙の影響 | 事前調査の方法 | 局所排気装置等の点検の方法 |
| (3) 喫煙の影響 | 分析調査の結果 | 湿潤化の方法 |
| (4) 年齢の影響 | 事前調査の方法 | 湿潤化の方法 |
| (5) 年齢の影響 | 分析調査の結果 | 局所排気装置等の点検の方法 |

問27 疫学、統計等に関する次のイ～ニの記述について、正しいもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

イ 健康管理統計において、「ある時点における有所見者の割合」は動態データである。

ロ 統計上、二つの事象の間に強い相関が認められても、それらの間に因果関係がないことがある。

ハ 疫学において、ある疾病とその原因との関係の仮説をたて、その仮説に基づいて、原因のある群とない群に分け、その後追跡調査をして、疾病の発生の相違を調べる調査方法は、前向き調査といわれる。

ニ ある集団の体重の平均が60kg、標準偏差が5kgで、正規分布をしている場合、55～65kgの範囲内にいる人数の割合は、その集団の約95%である。

- (1) イ ロ
 (2) イ ハ ニ
 (3) イ ニ
 ○ (4) ロ ハ
 (5) ロ ハ ニ

問28 安全管理等に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 事業場トップは、まず事業場の安全衛生についての目標を設定させ、それを踏まえ、自らの安全衛生に対する姿勢を明確にした安全衛生方針を表明する。
- (2) 事業場トップは、各級の管理監督者に必要な権限を委任した場合でも、それぞれの業務の履行状況の報告を求めるなどによって事業場の安全衛生管理の実状を把握し、必要な場合には改善などの措置を講じることを指示する。
- (3) 日常的にKYT（危険予知訓練）を行う職場では、常日頃から危険要因を見出す訓練が行われ、危険に対する感受性が高まることから、リスクアセスメントの危険性又は有害性の特定がスムーズに行えるようになる。
- (4) 5Sのうちのしつけは、4S（整理、整頓、清掃、清潔）が全員に徹底され、適切に実行されるようにするための基盤である。
- (5) ヒヤリ・ハット活動は、作業中にヒヤリとしたことやハットしたことを危険情報として活用する安全衛生活動で、当事者の責任を追及するためではなく、危険情報の把握をねらいとしている。

問29 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」の内容及びこれに基づく労働安全衛生マネジメントシステムの運用に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 安全衛生計画の実施状況等の日常的な点検とは、安全衛生計画が着実に実施されているかどうか、安全衛生目標は着実に達成されつつあるかどうかなどについて、安全衛生計画の実施事項の担当部門等が、点検を行うことである。
- (2) 労働安全衛生マネジメントシステムに従って行う措置を適切に実施する体制の整備には、労働者に対して労働安全衛生マネジメントシステムに関する教育を行うことが含まれる。
- (3) 指針は、事業者が取り組むべき事項を具体的に示すとともに、事業者の取組を国が支援するための事項を示している。
- (4) 労働災害、事故等が発生した場合におけるこれらの原因の調査並びに問題点の把握及び改善を実施する手順には、いつ、誰が、何をどのようにするか等について定める。
- (5) 事業場内部の者によるシステム監査は、事業場外部の者によるシステム監査に比べて、監査テーマを特定して、実態を詳しく調査し、評価することができる。

問30 厚生労働省の「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 化学物質管理者を選任し、リスクアセスメント及びリスク低減措置に関する技術的事項を管理させる。
- (2) リスクアセスメント対象物の安全データシート（SDS）を入手した場合には、SDSに記載されている情報を確認することにより、危険性又は有害性を特定する。
- (3) リスクアセスメント対象物による疾病のリスクの低減措置の検討においては、法令に定められた事項を行うことを前提として、リスクアセスメント対象物に係る機械設備等の密閉化を最優先とする。
- (4) リスクアセスメント対象物の「ばく露の程度」及び「有害性の程度」を考慮して行うリスクの見積りでは、ばく露の程度の把握に関し、気中濃度を実測する方法のほか、数理モデルを用いて推定する方法がある。
- (5) 毎回異なる環境で作業を行う場合のリスクアセスメントの方法として、典型的な作業でのばく露濃度測定結果を基にリスク低減措置マニュアル等を作成し、これに定められた措置の実施状況を確認する方法がある。

(終り)